

青少年健全育成に関わる地域社会の教育力の向上



【中島学区】

■世帯数：4,575 世帯

■人 口：10,648 人

■面 積：1.413k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 小学3年生の社会科「古い道具と地域の暮らし」の授業で地域の高齢者が講師として昔の遊びや、生活道具の使い方、わら縄づくりを教える。
- ・ 地域の方から無償で提供を受けた農地で、中学1年生が「稲作体験学習」で育てた餅米を使って行う「餅つき大会」の支援を行う。

【住民へのPR方法】

小学3年生、中学1年生には学校を通じて案内する。

【アピールポイント】

餅つき体験では餅を家族にもお土産として持ち帰り、生徒が体験談などを家庭で話すことで家族の会話がはずむとともに、食に対して感謝の心を感じ取ることができる。

昔の遊びではおじいさんおばあさんの子どもの頃を感じる事ができ、家庭で親子世代のふれあいができる。

2 きっかけ、背景

地域住民が学校に協力することで、児童、生徒、教師、地域住民のふれあいの場となっている。特に中学生の「稲作体験学習」では、地域の方から無償で農地の提供を受けることで始めることができ、生徒が農家の苦勞と食の大切さを学ぶことができた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、PTA 計約 50 人

(2) 運営協力

小学校児童、中学校生徒の保護者には例年協力を依頼している。

4 実施のスケジュール

毎年5月
中旬 中学1年生「稲作体験学習」
田植え（もち米）
その後、定期的に草取り清掃

10月中旬 稲刈り

3月下旬 餅つき

毎年2月 小学3年生「古い道具と地域のくらし」
昔の生活用品展示、昔の遊び体験、
わら縄づくり



5 成果と課題

(1) 成果・効果

親世代も知らない昔の遊びや食生活について小学生が学ぶことができよかった。

(2) 今後の課題・展望

担い手が高齢化しているため、若い世代の理解と継続の必要性について話し合い、指導していく。

(3) メッセージ・アドバイス

農作業体験によって食の大切なこと、食べ物を無駄にしないことなどを学ぶことができる。また、地域の中でつながりができ、あいさつがしっかりできるようになる。